

八十八話 感想文 第二話 七き父の教え

愛南町立内海中学校	三年	好岡	智紀
「地震が起こり避難するときには、その場所	の特徴を考え、逃げなければいけない。」	この言葉は、僕が第二十一話を読んだ感想	です。この話は徳島県阿南市で起こった南海
地震のときのことか書かれています。今まで	に遭遇したことの大きい地震が起こった	ときどのように行動するかが大切だというこ	とを考えさせられました。
先日、内海中学校で避難訓練がありました	緊急地震速報が聞こえたので、急いで机の下	に隠れました。教室の机は小さいので、一番	大切な頭を先に隠しました。避難指示が出た
ので、学級委員だった僕は防災バックと出席	簿を持って逃げました。	内海中学校の一次避難場所は若宮神社にな	っています。しかし、避難している最中に気
になることを発見しました。途中に川があり	橋があります。もし、橋が壊れていたらどう	するのかわ、津波は川をさかのぼってきたらど	

うするのだらうかなど気になりました。

学校では、橋が壊れた場合と橋が壊れなかつた場合と二つのルートで訓練しています。

また、訓練を繰り返すことで、避難時間も短くなつてきました。津波が来る前に急いで避難する方法をとっています。加えて、川の近くを通らないように避難していくことも大切だと気付きました。

しかし、心配なのは僕の家で地震が起こつたときです。僕の家も内海中学校のように海がすぐ近くにあります。避難する場合は橋を渡らないといけません。もし、橋が壊れていたらどうしようかと不安です。家族で他のルートを話し合っていないからです。できるだけ早く違うルートを話し合っておこうと思ひます。そして、家庭避難訓練を一回やってみたいと思います。橋が壊れた場合と壊れなかつた場合の2パターンを。